

デイサービスの送迎等に関する調査結果 【サマリー】



公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
在宅サービス経営委員会

令和8年10月

(1) 調査目的等

- デイサービスの送迎行為の評価は、現在は基本報酬に包括報酬化されているが、これまでの介護報酬において加算と減算の位置づけは異なるものの、その単位数は2003年以降、47単位のまま20年以上変わっていない(下図参照)。
- 本調査ではデイサービスの送迎の負担や費用等を把握し、送迎にかかる状況の地域差や収支差額を明らかにした上で、令和9年度介護報酬改定に向けて、①送迎のさらなる評価と、②特別地域加算等の適用に向けた検討材料とすることを目的としている。
- 送迎の状況は、運行管理表等の記録情報から、本調査専用の補助シートにより把握した。送迎の費用は、R5決算値とR6決算値から、該当する項目の額を把握した。

(2) 調査対象:

全国老協協デイサービス会員3,497事業所

(3) 調査期間:

令和8年3月13日(金)～5月1日(金)

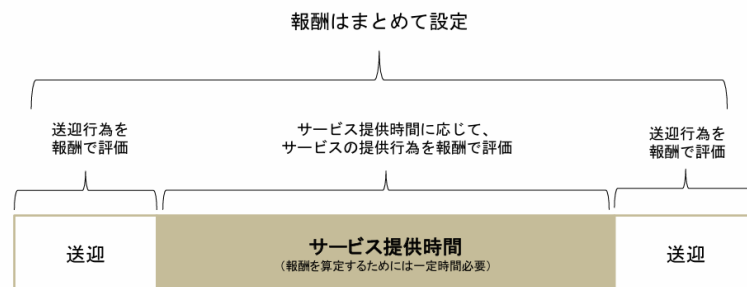
(4) 調査方法: WEB調査

(5) 回答数: 963事業所(回答率27.5%)

【介護報酬における送迎の取扱い】

通所系サービスの報酬における送迎の取り扱い

○ 通所系サービスの報酬には、サービスの提供に対する報酬と送迎に対する報酬が含まれている。



(参考)

平成17年度までは、事業所が送迎を行った場合、片道47単位を加算。平成18年度の報酬改定において、9割の事業所が送迎を実施していたことから、基本報酬に包括化されている。

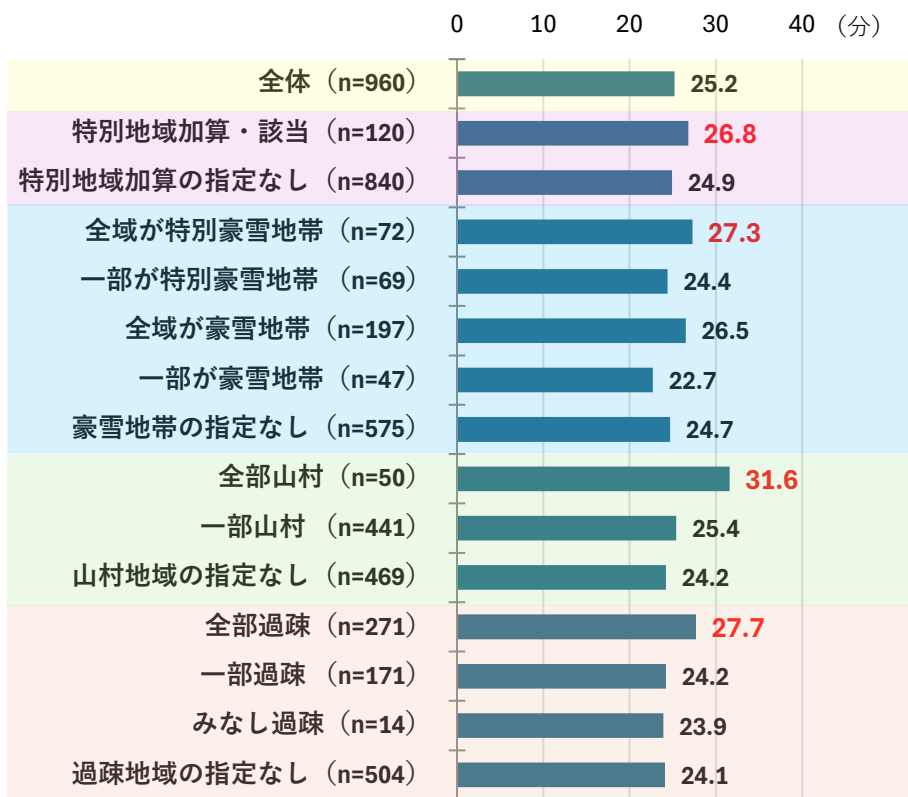
【主な調査結果】

- ① 「事業所から最も時間がかかる者の所要時間(片道)」と、「事業所から最も距離が遠い者の距離(片道)」では、いずれも指定を受けている地域の方が長かった。
- ② 「時間がかかる・負担に感じる項目」では、「送迎(運転)出来る職員が少ない」、「家族の協力が得られない又は家族のいない利用者が多い」、「自宅内での介助を要する利用者が多い」がそれぞれ50%前後であった。また、「遠方から利用者が多い」は、指定を受けている地域ほど多い傾向にあった。
- ③ 冬季では、送迎に要した時間が指定を受けている地域で長くなる傾向にあった。特に、豪雪地帯では指定なし地域との差が大きく、雪が影響していると考えられる。
- ④ 送迎にかかる費用では、豪雪地帯において、指定なしの地域との差額が約13.2万円と大きく開いていた。
- ⑤ 送迎にかかる費用を、令和5年度と令和6年度で比較した結果、令和6年度は前年比で約7.9万円増加していた(前年比+3.4%)。特に、「全域が特別豪雪地帯」では約14.4万円(前年比+7.9%)も増加していた。
- ⑥ 送迎にかかる年間の収支差額は、人件費が介護職員給与の時給だと100万円以上のマイナス、全産業平均の時給だと200万円以上のマイナスであった。
- ⑦ 上記の収支差額から、送迎にかかる単位数では、介護職員給与だと8～9単位のマイナス、全産業平均だと16～17単位のマイナスであった。それらを現行の47単位に加味すると、前者は55～56単位、後者は63～64単位となった。

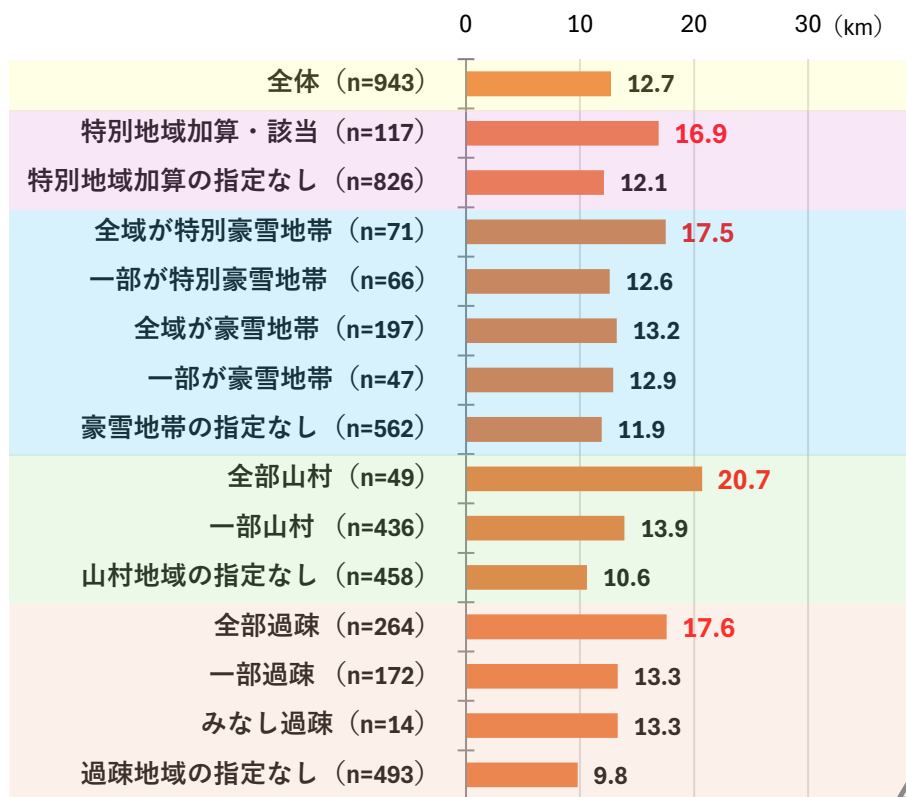
1. 最も時間がかかる者の所要時間と最も距離が遠い者の距離（片道）

- 令和7年度の利用者において、事業所からも最も時間がかかる者の所要時間（片道）と、最も距離が遠い者の距離（片道）では、**各地域区分とも、「指定なし」より指定を受けている地域の方が、所要時間と距離ともに長い傾向にあった。**
- 特に、「特定地域加算・該当」、「全域が特別豪雪地帯」、「全部山村」、「全部過疎」は顕著であり、「指定なし」と比較した場合、**所要時間は約1.1～1.3倍、距離は約1.4～2.0倍であった。**

【最も時間がかかる者の所要時間（片道、分）】



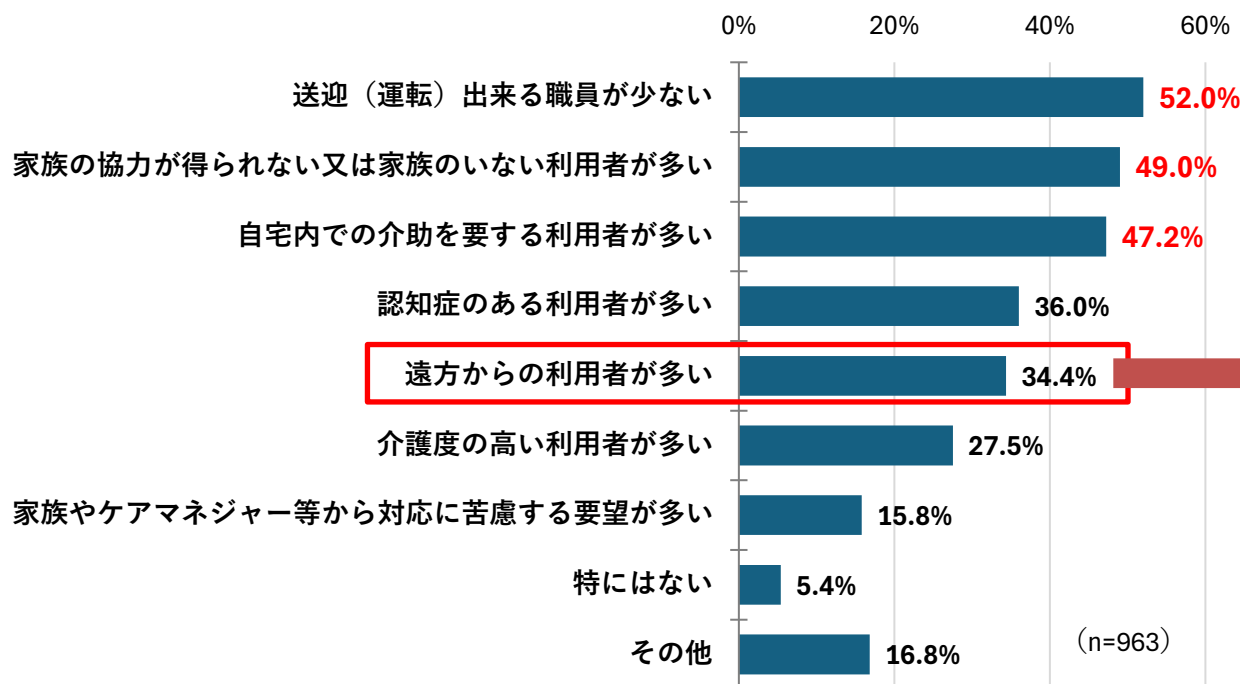
【最も距離が遠い者の距離（片道、km）】



2. 時間を要する・負担と感ずる内容

- 時間を要することや負担と感ずる内容では、「送迎(運転)出来る職員が少ない」が52.0%、「家族の協力が得られない又は家族のいない利用者が多い」が49.0%、「自宅内での介助を要する利用者が多い」が47.2%の順で、この3項目が多かった。
- 地域別にみると、上記3項目はいずれの地域でも多い傾向にあったが、「遠方からの利用者が多い」(34.4%)では、「特別地域加算・該当」、「全域が特別豪雪地帯」、「全部山村」、「全部過疎」で多くなっていた。

【時間を要する・負担と感ずる内容】



【時間を要する・負担がある】	遠方からの利用者が多い
全体(n=963)	34.4%
特別地域加算・該当(n=120)	48.3%
特別地域加算・指定なし(n=843)	32.4%
全域が特別豪雪地帯(n=72)	48.6%
一部が特別豪雪地帯(n=69)	36.2%
全域が豪雪地帯(n=198)	36.4%
一部が豪雪地帯(n=47)	38.3%
豪雪・指定なし(n=577)	31.4%
全部山村(n=50)	66.0%
一部山村(n=444)	38.1%
振興山村・指定なし(n=469)	27.5%
全部過疎(n=271)	47.2%
一部過疎(n=174)	37.4%
みなし過疎(n=14)	28.6%
過疎地域・指定なし(n=504)	26.6%

3. 夏季と冬季における送迎の差

- 1日ベースの送迎の状況において、冬季の状況から夏季の状況を差し引き、冬季と夏季の状況を比較すると、多くはその差が小さかった。
- その中で、**顕著だったのは「送迎に要した時間の合計」**であり、特に豪雪地域、振興山村、過疎地域において**冬季の方が長くなっている**傾向にあった。その中でも、**豪雪地域はその差が顕著だったことから、雪の影響**で送迎に時間がかかっていたと考えられる。

【冬季と夏季の状況の比較】(1日ベース)

【冬-夏=差】	走行キロ 数(km)	送迎に要 した時間の 合計(分)	稼働した 車両台数 (台)	送迎した 回数の合 計(回)	運転・添 乗した職 員数の合 計(人)	職員1人 で送迎した 回数(回)	その日の 利用者数 (人) ※ 送迎なしを 含む
全体(n=834)	1.10	7.70	0.13	0.14	0.21	0.05	-0.03
特別地域加算・該当(n=101)	3.70	5.73	0.29	0.37	0.51	0.30	0.06
指定なし(n=733)	0.86	7.98	0.11	0.11	0.18	0.02	-0.04
全域が特別豪雪地帯(n=62)	-3.60	40.86	0.04	0.00	0.26	-0.10	0.07
一部が特別豪雪地帯 (n=60)	-1.70	30.77	0.20	0.38	0.89	-0.06	-0.04
全域が豪雪地帯(n=167)	3.92	28.60	0.21	0.36	0.49	0.10	0.19
一部が豪雪地帯(n=39)	-1.63	2.72	-0.13	-0.15	0.26	-0.18	0.00
指定なし(n=506)	1.20	-5.67	0.11	0.06	0.03	0.06	-0.11
全部山村(n=43)	5.31	26.99	0.35	0.35	0.53	0.13	0.08
一部山村 (n=392)	1.72	12.62	0.12	0.16	0.34	0.07	0.06
指定なし(n=399)	0.50	1.49	0.12	0.11	0.07	0.03	-0.13
全部過疎(n=234)	-0.33	23.00	0.07	0.04	0.17	0.01	-0.14
一部過疎 (n=160)	4.16	5.20	0.15	0.30	0.35	0.22	-0.02
みなし過疎(n=11)	8.71	-10.38	0.14	-0.65	0.32	-0.94	1.39
指定なし(n=429)	0.49	1.92	0.14	0.15	0.18	0.04	-0.02

4. 送迎にかかる費用（1台あたり）

- 令和6年度の決算値において、送迎車両1台あたりの送迎にかかった費用では、**豪雪地帯**において、概ね**指定を受けている地域の方が高い傾向**にあった。
- 特に、「**全域が特別豪雪地帯**」と「**指定なし**」では約13.2万円の差があった。

【令和6年度決算値における送迎車両1台あたりの費用】

R6費用 【送迎車両1台あたり】	ガソリン代	車検・ 点検費	修理・ 整備費(消耗 品含む)	保険料	送迎車両 リース代	送迎車両 減価償却費	駐車場費用 (送迎車両の 保管用途に 限る)	その他	合計
平均(n=931)	180,949	50,307	48,994	52,304	97,358	64,284	2,788	4,306	501,291
特別地域加算該当(n=113)	160,322	48,495	53,707	46,956	81,301	59,296	1,404	2,689	454,170
指定なし(n=818)	183,747	50,552	48,355	53,030	99,536	64,960	2,976	4,526	507,683
全域が特別豪雪地帯(n=68)	226,952	65,201	76,904	59,970	102,957	64,899	789	2,994	600,665
一部が特別豪雪地帯(n=68)	180,578	37,163	63,224	40,990	143,399	84,834	909	9,398	560,495
全域が豪雪地帯(n=193)	210,026	58,386	60,431	55,432	118,937	82,760	1,634	2,655	590,260
一部が豪雪地帯(n=46)	158,500	33,657	34,929	51,557	68,107	58,886	3,465	841	409,943
指定なし(n=556)	170,610	49,518	42,969	52,087	87,845	57,014	3,438	4,602	468,083
全部山村(n=49)	184,637	61,143	72,654	46,429	94,029	52,788	0	2,032	513,712
一部山村(n=429)	173,071	46,874	47,870	48,807	92,841	68,385	1,756	2,669	482,273
指定なし(n=453)	188,429	52,785	48,106	56,259	102,106	61,200	4,045	6,118	519,049
全部過疎(n=260)	177,480	49,238	54,439	45,518	74,829	70,844	350	4,612	477,309
一部過疎(n=167)	171,734	42,894	42,911	47,601	106,047	59,531	1,962	3,588	476,268
みなし過疎(n=14)	179,792	62,005	59,692	54,564	36,363	57,551	28	3,528	453,522
指定なし(n=490)	186,059	53,201	48,219	57,304	107,071	62,977	4,374	4,440	523,644

5. 送迎にかかる費用（R5とR6の差）

- 令和6年度決算値から令和5年度決算値を差し引くと、**全体の合計額では7.9万円増加（前年比3.6%UP）**していた。傾向としては、「ガソリン代」と「修理・整備費（消耗品含む）」が大きく増加していた。
- 地域別では、「**全域が特別豪雪地帯**」で約14.4万円（前年比7.9%UP）、「**過疎地域の指定なし**」で約10.5万円（前年比4.5%UP）上がっていた。

【令和6年度決算値と令和5年度決算値の差】

R6費用-R5費用＝差 【平均額】 ※ 減価償却費を除く	ガソリン代	車検・ 点検費	修理・ 整備費（消耗 品含む）	保険料	送迎車輛 リース代	駐車場費用 （送迎車輛の 保管用途に 限る）	その他	合計
全体(n=931)	26,878	7,919	17,804	1,785	16,495	174	7,950	79,005
特別地域加算該当(n=113)	-4,386	-44,063	35,088	420	-8,964	-1	40	-21,866
指定なし(n=818)	31,197	15,100	15,416	1,973	20,012	199	9,043	92,940
全域が特別豪雪地帯(n=68)	85,274	22,723	50,538	-10,837	-6,450	2,019	755	144,021
一部が特別豪雪地帯(n=68)	-4,691	-21,262	21,443	-9,032	99,112	0	6,306	91,878
全域が豪雪地帯(n=193)	38,137	-13,388	41,495	-3,373	-7,417	92	4,951	60,497
一部が豪雪地帯(n=46)	57,047	-62,914	-16,971	4,732	-10,496	-3	1,500	-27,105
指定なし(n=556)	17,193	22,933	8,009	6,198	19,730	13	10,606	84,683
全部山村(n=49)	15,237	1,108	85,697	-15,122	-95,920	0	1,835	-7,165
一部山村(n=429)	34,565	-4,182	13,328	-853	28,384	270	1,573	73,084
指定なし(n=453)	20,857	20,115	14,699	6,112	17,396	103	14,652	93,934
全部過疎(n=260)	10,424	-5,122	22,290	-8,236	-817	528	14,378	33,445
一部過疎(n=167)	27,653	-5,527	8,165	6,036	38,269	137	2,112	76,844
みなし過疎(n=14)	72,138	-25,961	5,375	6,853	-27,203	0	6,143	37,345
指定なし(n=490)	34,051	20,389	19,064	5,508	19,509	5	6,581	105,107

6. 送迎にかかるコストの年間収支差額（1事業所あたり）

- 下図の考え方から、これまでの「送迎の状況」及び「送迎にかかる費用」の調査結果と3種類の時給により収入、人件費、車両費用を計算して収支差額を算出した。
- 人件費にかかる時給額が最低賃金の場合では80万円弱のプラスであったが、**介護職員給与では100万円以上のマイナス、全産業平均では200万円以上のマイナス**であった（807事業所の平均定員は29.1名）。

【収支差額の算出の考え方】



*【時給】①R7最低賃金(全国加重平均): 1,121円

②介護職員給与からの算出: 月額314,000円÷実労働時間数158.8=1,977円

③全産業平均からの算出: 月額396,000円÷実労働時間数158.8=2,494円

【1事業所あたりの送迎のコストにかかる年間収支差額】

		807事業所の合計額(1日あたり、円)				1事業所あたりの収支差額(1日あたり、円)	807施設の年間平均稼働日数(日)(F)	1事業所あたりの送迎にかかる年間収支差額
		収入(A)	人件費(B)	車両費用(C)	収支差額(D)A-B-C	(E)=D/807	(日)(F)	E*F
R7.8 状況	(1)最低賃金 1h¥1,121	17,210,460	6,640,430	8,434,634	2,135,396	2,646	297.4	786,948
	(2)介護職員給与 1h¥1,977		11,711,089		-2,935,263	-3,637		-1,081,719
	(3)全産業平均 1h¥2,494		14,773,625		-5,997,799	-7,432		-2,210,341
R8.1 状況	(1)最低賃金 1h¥1,121	17,030,450	6,698,573	8,336,761	1,995,116	2,472	297.4	735,251
	(2)介護職員給与 1h¥1,977		11,813,629		-3,119,941	-3,866		-1,149,777
	(3)全産業平均 1h¥2,494		14,902,980		-6,209,292	-7,694		-2,288,282

7. 送迎にかかる単位数

- 送迎利用者1人あたりの収支差額から、現行の47単位の過不足を算出した。
- 最低賃金の場合だと6単位のプラスであったが、介護職員給与だと8～9単位のマイナス、全産業平均だとの16～17単位のマイナスであった。
- これらを現行の47単位に加味すると、最低賃金は41単位、介護職員給与は55～56単位、全産業平均は63～64単位となった。

【1事業所あたりの送迎にかかる年間収支差額】

		807事業所の 収支差額(1日 あたり、円) (D)A-B-C	807事業所 が1日で送迎 した利用者の 合計(人)(E)	送迎利用者 1人あたりの 収支差額(円) (F)=D/E	単位数の 過不足分 (G)=F/10	過不足分を加 味した単位数 (47単位-G)
R7.8 状況	(1)最低賃金 1h¥1,121	2,135,396	36,618	58	6	41
	(2)介護職員給与 1h¥1,977	-2,935,263		-80	-8	55
	(3)全産業平均 1h¥2,494	-5,997,799		-164	-16	63
R8.1 状況	(1)最低賃金 1h¥1,121	1,995,116	36,235	55	6	41
	(2)介護職員給与 1h¥1,977	-3,119,941		-86	-9	56
	(3)全産業平均 1h¥2,494	-6,209,292		-171	-17	64